

## ラーニング・サポーター ♪ 5月のつばやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館2階 JWUラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つばやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

### <5月のつばやき♪INDEX>

p.1 水平線に向かって @K.W.(生活環境学専攻(被服)博士課程後期3年) 5月1日 tweet!

p.2 夏告げ鳥と貝殻 @T.K.(相関文化論専攻博士課程後期3年) 5月18日 tweet!

p.2 100年前の人への共感-たばこと塩の博物館 @K.S.(日本語日本文学専攻博士課程後期3年) 5月18日 tweet!

### つばやき1♪

#### 水平線に向かって

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。そして、在学生の皆さんもご進級おめでとうございます。今年度がみなさんにとって素敵な1年になりますように！

今回は、先日行われた JWULC さくらオンラインミニ講座「ラーニング・サポーター座談会～大学院よもやま話～」に関連して、大学院についてお話ししたいと思います。

この座談会では、1週間のスケジュールや学内および学外での仕事、研究のモチベーションの保ち方など、大学院にまつわる様々な事柄について、ざっくばらんにお話しをしました。その中でもテーマにあがった「大学院に進学してよかったことは？」について、改めて考えてみました。

先日学部を卒業して就職をした友人と食事に行った際、友人が「最近、知的好奇心が満たされる瞬間が少ない。新しく知ること減って、それを得ようという気持ちもあまり生まれなくなってきた。」という話をしてくれました。ほかの友人もそれに共感して、話は「何か習い事でもはじめようかな…」「転職したらもっと刺激があるのかも…」という方向に進んでいきました。一方の私は、この話に全くぴんと来ず、うまく話の波に乗れずにただ顔きながら、今当たり前のように自分が過ごしているこの生活がとてつもなく貴重なものであることに気が付いたのです。

院に進学して修士課程と博士課程をあわせて4年、私にとっては毎日が刺激的でした。授業の内容は学部時代よりさらに専門的になり、自身の研究もより深まっていく中で、知識の海の中を水平線に向かって泳いでいくような、苦しさや満足感が日々私の中にはあるのだと思います。大学院での生活は、自分の至らなさや弱い部分を自覚せざるを得ない事柄の連続で、苦しい瞬間も少なくはありません。しかし、それと同時に、自分が興味を持ったことをとことん突き詰める、見えないゴールに向かって手探りで進んでいくという行為は、研究とともに自身が成長しているという確かな手触りを感じさせてくれるのです。

「巨人の肩の上に立つ」という言葉があります。先人たちの知識や発見をもとに、高い視点から遠くを見渡すことで、より大きな成果を出すことができるという意味を持ち、数多の研究の積み重ねの上に自分がいることを実感する言葉です。水平線は高い位置から見ると、より遠くに見えるそうですが、その遠い、遠い水平線に向かって、今はただがむしゃらに、この手触りを楽しんで進んでいこうと思います。

#### 人間生活学研究科 生活環境学専攻

##### 自己紹介

博士課程後期3年 洋服服飾史

本学 家政学部 被服学科(学部)卒業

本学 家政学研究科 被服学専攻(修士課程)修了

##### 研究対象

19世紀フランスの衣装を中心とする装いに関する研究

##### ひとこと

授業や課題、卒論に関することなど、大学生活の中で困ったことがあった際には、お気軽にご相談ください！



つばやき2♪

夏告げ鳥と貝殻

既に暦の上では立夏を迎え、本格的な暑さが始まりました。日傘を差したとて、太陽の熱視線を避けることは難しいという現実直面するこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、家の近くを歩いていた時に鶯の鳴き声が聞こえました。その美しいさえずりから春告げ鳥とも呼ばれますが、ひょっとすると夏を知らせてくれたのかもしれない。

季節感を認識するときには、気候や自然のものがきっかけになることが多いのではないのでしょうか。夏を感じるきっかけを、個人的に考えてみました。太陽の眩しさ、昼夜の温度がほとんど変わらないこと、蝉の声、アイスを食べたくなる気温、手を洗う時に水の冷たさを気持ちいいと感じること、半袖を着たくなること、などなど。

夏で好きなのは、冷やしたものを美味しく感じられるところです。これは、私がアイスや冷奴、夏野菜が好きだからかもしれませんが、他の季節では楽しみづらいものを楽しんでいるというところに豊かさを感じます。成人してからプールや海水浴に行くことは無くなりましたが、小さい頃は家族とプールや海へ行くことが好きでした。

ふと、昔の記憶を思い出しました。海辺で風に吹かれながら、一生懸命に貝殻を探していたこと。もしかすると、一番古い記憶かもしれません。当時海辺で拾った沢山の貝殻は、20 数年経った今も捨てられないまま、引き出しの中にあります。もう捨ててもいいのですが、それぞれの貝殻の形や模様が幼心にとても不思議でした。それを見ると当時の楽しかった記憶が蘇って、もう一度引き出しの中にしまってしまうのです。幼い頃、夏を満喫した思い出は、貝殻の中にあるのかもしれない。

春と夏の間に聞いた鶯の声から、そんなことを考えました。今までの人生を振り返ると、既に貝塚ができてしまうほど沢山の思い出が積み重なっています。夏を迎え、素敵な貝殻を見付けられるように日々過ごしていきたいです。

これから暑さが益々厳しくなりますので、皆様お気をつけてお過ごしください。

人間社会研究科 関連文化論専攻 博士課程後期3年

研究分野 文化人類学、民俗学  
日本におけるお祭りの社会的役割について

保有資格 博物館学芸員

サポート例 履修や研究の進め方、参考文献の集め方、レポートや研究計画書の書き方、フィールドワークの進め方、学芸員資格について

小さなことでも不安をサポートします！ お気軽に声がけください。

つばやき3♪ 100年前の人への共感—たばこと塩の博物館

勤務先の高校のメールボックス。そこを開けるのは担当授業のある週2日だけ。授業以外を受け持たない私には何かの連絡が回ってくることもなく、生徒の作成した校内新聞が時おり入っているくらいでした。そんなボックスが沢山のチラシで満たされるようになったのは、昨年春ごろからだっただけでしょうか。文学館、美術館、博物館。ありとあらゆる展示情報が届きます。朝にボックスを開けるという楽しみが増えました。生徒にも情報共有をしながら、私自身も出向いた先で新たな学びを得ています。

4月に訪れたのは、スカイツリーの近くにある「たばこと塩の博物館」。たばこの広告に関する展示が行われていました。たばこ自体には馴染みがないけれど、どのように宣伝するかという工夫が本当に興味深いものでした。明治、大正期であっても人間が考えることは変わりません。おしゃれなポスターは残しておきたい。少くくデザイン性に欠けていたとしても、カレンダーが付いていれば飾っておいてもいいかと思う。限定のカードなんかが入っていたら、やっぱり集めてみたくなる。そうした心理を巧みに利用して、広告は作成されていきます。

文学研究科 日本文学専攻

▶自己紹介  
・博士後期課程 日本近現代文学 ・資格：専修免許状（中高・国語）  
・高校の現代文（1年生）と大学の講義（アカデミック・リテラシー）を担当しています。

▶研究対象  
宇野浩二の文学における芸術家表象について

▶ひとこと  
演習授業やレポートについてはもちろんのこと、教職の模擬授業や教育実習について、大学院進学相談など、ぜひお気軽にいらしてください！

「これおしゃれたな」  
「カフェに飾ってあったらかわいい！」

何かを学ぼうと構える必要はないように思います。全てを見なければと思うほどに、鑑賞は義務的になります。ついふらっと足を運んで、心が惹かれたものを眺めてみる。そうした時間の中にこそ、100年以上前の人たちと共感し合える嬉しさがあるのではないのでしょうか。そして、自らの内側に芽生える共感、人間心理の普遍性という大きな問題に気付かせてくれる契機となります。

今、私の机の引き出しには、次に行きたい展示のチラシが何枚も入っています。ただひとつ悩ましいのは、そのほとんどが6月半ばまでということ。上手く時間を見つけて、ひとつずつ訪れてみたいです。6月のつぶやきで、またご報告させてください。



ラーニング・サポーターのつぶやき (2026年5月)  
ホームページ [https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc\\_ls.html](https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html)  
編集: JWU ラーニング・コモンズさくら